

事例⑥「トンチンカンチン大工さん」

【秘密基地づくりと自由木工工作を通じた父親参加】

父親の子育て参加

神戸市立六甲道児童館

事業の概要

ビルの4階という特殊な環境にある六甲道児童館では、どうしても室内での活動が主になり、子どもたちの自分で考える力、挑戦する力を養うためにはどうすればよいか大きな課題でした。平成19年に「児童館を活用した父親ネットワークづくり事業」のモデル事業を受けることとなり、木工を通じた秘密基地づくりをテーマとした事業を始めました。そこで、児童館内に限らず地域の子どもたちや保護者にもどのような空間が児童館内にほしいかという意見を募集し、あつまった様々な夢の形をもとに、地域の高校・大学・業者・地域住民と共に協力し、館内に子どもたちが自分で考え挑戦する空間を自分たちの手で作ることを目指しました。

秘密基地の開放後は、自由に木工ができる時間・空間・仲間の提供を意識し、1ヶ月に1回程度の実施を継続しています。平成24年12月現在実施回数は60回をかぞえ、毎回たくさんの子どもたちや保護者が参加し、トンカチの音が館内に響いています。

事業の具体的な内容

○マンション住まいが多く、金づち・ノコギリ等使う場所が無いこともあり、月に1回程度「自由に木工ができる場」として児童館を開放しています。

○家庭単位では行いにくい製作物を地域の専門家の指導の下実施する機会を作り、『木製のままごと用キッチン製作』・『木製ドールハウス製作』などを行っています。

○各自何を作るかをイメージして、自分の力で切り、釘・ビスなどを使い組み立てを行います。

○子ども・大人共に、大工道具や電動工具な

どに触れる経験が少ないため、大工道具などの使用法を説明し、製作物の構造上のアドバイスをします。

○活動を通して、初めて挑戦することの大切さ、難しさ、そして達成感を親子共に感じてもらっています。



事業実施のポイント

○1ヶ月に1回土曜日実施を基本とし、定期的な実施をしています。

○木工プログラムが、プログラム初参加者・来館した経験のない人が興味を持つきっかけ作りになるように、気軽に参加できることを目指しています。

○夏休みの日曜日に1日通しの長時間で実施し、夏休みの工作を意識したイベントを開催しています。

○児童館だより（近隣地域へ掲示・配布・インターネットへの掲載）・インターネットやメディアを通じて事業の実施や児童館での取り組みを多くの方に知ってもらうようにしています。

○近隣の木材店や一般の方より端材などを提供してもらうよう、木材提供の募集を呼びかけています。

○秘密基地・木製玩具の補修を子どもたちと共に行うことで、ものを大切に使うことを伝えていきます。



「児童館ガイドライン」の「活動内容」ごとの事業の紹介(主なもの)

③ 保護者の子育て支援

『父親の出番』

この事業をスタートさせる際、『父親の出番』というテーマを意識し来館者にアプローチしたことで父親の来館増加につながりました。父親が自発的に子どもと共に来館される人もいれば、子どもの宿題のため渋々足を運んだ父親などそのきっかけは様々でした。普段関わることができない分土曜日などに子どもと思いきり関わろうと、父親のみで子どもを連れて来館するケースも多くみられます。話を聞くと母親は家で普段できていない、ゆったりとした時間を過ごしているという家庭もありました。参加される家族の中には、子育てと仕事の分業という従来の夫婦の形ではなく、共に子育てに関わる姿勢が見え、父親も、子どもと一緒に関わる中で自分が子ども・家族に出来ること、また子どもと共にできることを見出し、『自主的に子どもと関わることを楽しむ姿勢』が見られるようになりました。

④ 子どもが意見を述べる場の提供

『終わりのないプログラム』

秘密基地には完成がありません。その時の子どもたちの意見によりデザインを変えることもあります。また、「危ないからダメ」と禁止してしまうのではなく、楽しく安全に使うにはどのようにすればよいかを子どもたちと大人が共に考えるよう心がけ、基本的な使用上のルールを子どもたちの話し合いの中で決めました。これも常に子どもたちの意見とニーズによって変化していきます。

『子どもたちの自発的な活動を尊重し、必要に応じて援助する』

現在の自由木工は決まったものをつくらせる場ではなく、自分で考え、自分の力で作ります。その中で参加者のイメージを形にできるように職員や大人が相談に乗るようにしています。自分でイメージしたことをどのように形にするか考え、人に思いを伝えることを大切にしています。戸惑いながらも自分で伝え、考え、形にした経験は子どもたちの中で大きな力になっていきます。

利用者の声など

- 「パパの趣味が木工になりました。隙間の収納棚を作ったり、娘のドールハウスを作りだしました。」(来館者母)
- 「3年前に子どもと初めて参加して『椅子』を作りました。今日は妹のためにそれに合わせた『机』をつくりに来ました。」(参加者父)
- 「こんな木製の秘密基地がビルの4階にあるなんてびっくりしました。」(来館者母)
- 「もうすぐ妹の誕生日やねん。俺がプレゼントつくるねん」(参加者・小学校5年男子)
- 参加回数が増えるたび、お父さんの持ってくるMY工具が増えています。
- 屋根に怖くて登れなかった女の子、みんなの応援を受けて自分で登り、最後はセーフティマットに飛びおろることができました。今ではへっちゃんらです。
(大人が登らせてあげることはしません。今できないということは、まだ自分の力がそこまで至ってないことなので自分の力で登れるまで待ちます。)



児童館のプロフィール

- 名称：神戸市立六甲道児童館
設置主体：神戸市
運営主体：NPO法人 S-space
開設年月：昭和49年5月、平成18年度より現在の運営主体
開設時間：9:30~12:00 13:00~17:00
(月・火・金 お弁当広場開放/火・金 夜間中高生開放有)
所在地：神戸市灘区深田町4-1-39 メイン六甲ビル401
紹介等：<http://npo-space.com/01/>

事例⑦「ジャグリングクラブ ENJOY POP CLUB」

継続的な活動

今 治 市 枝 堀 児 童 館

事業の概要

○児童館を利用する児童が、普段の児童館活動とは別にジャグリングという同じ目的を持ちながら継続的に活動していくことで、集団への協調性を養うとともに、児童にとって安心できる居場所の確保を図っています。

※ジャグリングとは、代表的な物として、複数のボールやクラブなどを空中へ投げたり、キャッチしたりする動作を繰り返す技術です。近年はスポーツの一環として、競技人口が増えています。

○児童館主催のイベントや地域のイベントに参加し、活動成果を発表することで、他の児童館や地域社会との交流を図っています。

○ジャグリングクラブが継続した活動を行っている特性を活かして、イベントでの発表だけでなく、老人ホームなど様々な場所で、ボランティア活動にも積極的に参加しています。

事業の具体的な内容

○小学生3年生以上の子どもを対象に月に2回活動日を決めて練習を行っています。

※クラブ員の人数：10名（うち小学生9名、中学生1名）

○子ども達の中からキャプテンを選び、キャプテンを中心に、子ども同士で話し合い活動内容や発表内容を決めています。

○発表会が近づくにつれ、活動日以外の日でも、自主的に来館し、子ども同士で練習や話し合いが行われています。

○24年度においては、次のような活動を行い、地域や他の児童館との交流を深めました。

24年 8月：児童館主催の夏祭りでの発表
10月：府中市POM子どもの国（広島県）で活動しているジャグリングクラブとの交流
11月：地域おこしのイベントに参加、
12月：老人ホームのクリスマス会で発表
25年 2月：市内の他の児童館に出向き出張ジャグリング指導を実施。

○クラブに所属している子ども達を中心に、ボランティア活動への参加を呼びかけ、クラブに所属していない子どもも巻き込みながら、ボランティア活動を行っています。

※ボランティアの内容…ジャグリング体験コーナーでの指導、遊びコーナーの運営、
高学年は低学年向けのイベントのグループリーダーとして活躍

○中高生の居場所づくりを目的としています。小学校高学年の児童に対してボランティア活動やクラブ活動の取組を発信し、継続的な活動を行っていく事で「自分たちの施設」という意識が芽生え、中高生になっても、その活動を通して児童館が居場所となるようなジュニアボランティアの育成を行っています。

事業実施のポイント

- ・児童館スタッフはクラブ運営に対して発表の場を提供する役割を担うが、発表内容については子ども同士が話し合っていて決めていくような流れを作るように心がけています。
- ・高学年の子から低学年の子へと技術や発表の仕方が受け継がれていくように、児童館スタッフが指導をするのではなく、子ども同士で教え合いをするような流れを作るように心がけています。
- ・普段の練習や児童館主催イベントでの発表を通じて、クラブ活動の周知を積極的に行っていますが、こちらから参加を呼び掛けるのではなく、子どもの方から参加したいという声が生まれるようなねらいをもって活動しています。

「児童館ガイドライン」の「活動内容」ごとの事業の紹介(主なもの)

① 遊びによる子どもの育成

ジャグリングクラブという継続した活動を通して、子ども達が努力することの大切さを学び、発表の場を通じて子ども達の自信を深めていけるように取り組んでいます。

クラブでは児童館スタッフが主導的に活動を促していくのではなく、キャプテンを中心に活動を行っています。発表が近づくにつれ、活動日以外の日でも自主的に来館し練習を行っており、クラブ活動を通じて、子ども達にとって安心できる居場所の確保を図り、健全な育成を推進しています。

④ 子どもが意見を述べる場の提供

児童館スタッフは発表の場を提供する役割を担いますが、発表内容についてはキャプテンを中心に子ども同士で自由に話し合い、決めていくことにしています。話し合いの中で、時には自分の意見を通そうとしたり、あるいは相手の意見を通すような経験を通じて、集団への協調性が生まれています。

児童館スタッフの役割は、子ども同士が話し合い、やってみたいことを可能な限り実現できるように援助していくことと考えています。

⑥ ボランティアの育成と活動

ボランティアというものは、いかにして最初の一回目の機会を持つかが重要であると考えています。

そのため、共通の目的を持って活動しているクラブ員に対して、ボランティア活動への参加を呼びかけていくことで、ジャグリングの発表だけに留まらず、地域のイベントにボランティアとして参加する姿が見られるようになりました。また、クラブ員がボランティア活動を行っている様子を見て、クラブに入っていない子ども達もボランティアに参加していくような流れが見受けられるようになりました。

『職員の手伝いをする』でなく、『楽しい事をしにいく』。その結果が『ボランティア活動』に繋がっているといった視点をもった活動計画を立てていくことが重要と考えています。

利用者の声など

- ・練習を通じて様々な技ができるようになった。学校の発表で友達に自慢できた。
- ・発表は初め緊張するけど、終わってみるとみんなで考えたりしたことが楽しかった。次の発表では他の技にも挑戦してみたい。
- ・府中市POM子どもの国で他の県のジャグリングクラブの人に技を教えてもらったのが楽しかった。他の県の人との交流が楽しかった。



練習の様子



POM子どもの国との交流



発表の様子



ボランティア活動

児童館のプロフィール

名称：今治市枝堀児童館

設置主体：今治市

運営主体：今治市

開設年月：昭和45年5月

開設時間：9:30~18:00

所在地：愛媛県今治市枝堀1丁目4-1

紹介等：今治城のお堀にちなんだ児童館名です。

<http://www.islands.ne.jp/imabari/kosodate/jidoukan/>



今治市児童館マスコットキャラクター
こたろうくん